



優勝した狛高ダンス部員

日本ダンス大会 狛高ダンス部が初優勝

都立狛江高等学校ダンス部が6月11日(日)に市川市文化会館(千葉県)で開催された第5回日本ダンス大会—高校生部活コンテスト(日本ダンス技能向上委員会主催、スポーツ庁ほか後援)で初優勝を飾った。

大会には全国からビデオによる一次審査の通過とシードによる高校部活チーム42校が参加、ダンススキル、構成力、協調性などを競った。狛高は第1回から連続出場し、昨年は蝶理特

別賞を受賞した。

同高ダンス部は、卒業生でプロダンサーの貝塚知子さんと矢澤明日香さんの指導で練習を重ねてきた。今大会では3年生23人が息の合ったダンスを披露、初の栄冠を獲得するとともに、昨年に続き蝶理特別賞もダブル受賞、3年連続でシート権も獲得した。

部員たちは、競技中に音響が止まり演技をやり直すというアクシデントに見舞われたが、「ピンチをチャンス

にしよう」と励まし合ったのが良かった」と振り返り、「実績を積んだ技術が高い学校も多いなか、優勝したのが信じられない。とてもうれしいです」と喜んでいる。

優勝に伴い8月20日(日)に東京国際フォーラムで開かれる、日本最大のダンス・エンターテインメント作品コンテストである「Legend Tokyo」にティーンズゲストとして出場することになった。

部員たちは「日本ダンス大会は、3年生として最後の大会なので、最高の目標である優勝をめざして猛練習しました。黒猫をテーマとした今回の作品は、しなやかな動きの中に速い動きがあり、練習では頭と体がついていかないこともありましたが、納得のいくまで繰り返し練習し、みんなで乗り切りました。『Legend Tokyo』では優勝チームとして恥ずかしくない演技ができるようがんばります。ぜひ、地元・狛江の人たちに見てもらいたいです」と話していた。

のほか、音楽やダンスのステージなど親子で楽しめる催しがある。

泉の森会館前の通りでは29日(日)午前10時30分～午後7時30分、30日(月)午前10時～午後6時30分に朝市、ストリートダンス、ライブなどを行うほか、30日(月)午後6時頃に同会場から泉龍寺へ阿波踊りのパレードがある。

問い合わせ ☎3480-9367木村メガネ。

涼しげな緑の光にため息 弁財天池でホタル観賞会

元和泉にある泉龍寺の弁財天池で6月17日(日)、ホタル観賞会が催された。

観賞会は、東京狛江ロータリークラブが、ホタル復活をめざし毎年催しているもので、ことしで8回を数える。池の水路に設けられたケージに約400匹のゲンジボタルが放たれると、訪れた人たちは暗闇に明滅する涼しげな緑色の光に見入り、「初めてみたけど、きれいだね」などと話していた。



闇の中を飛ぶホタル

救助・救命活動の5人 消防総監から感謝状

狛江市内で発生した2件の事故で救助や救命に功労があった市民に対し消防総監感謝状の贈呈式が6月7日(日)に狛江消防署で催され、出席した5人に茂木茂署長から感謝状が手渡された。

団体職員石川次郎さん、大学生の根本明日加さん、自営業の西山千香さんは5月20日(日)に狛江駅のホームから線路に転落した63歳の男

性を他の4人と協力して救助した。また、Odakyu OX 狛江店店長の高梨康さん、同店勤務の李克美さんは5月22日(月)に元和泉1丁目の酒店内で心肺停止状態になった61歳の男性を、消防団員の飯田泰信さんの指示でAEDを運ぶなどの救命活動にあたった。心臓マッサージなどを行って命を救った飯田さんには後日、消防総監表彰状

が贈られる予定。

「『よりあっこ』は、川口地域の人が冬の農閑期にお酒や食べ物を持ち寄って集まる習慣を意味した言葉で、狛江と川口の市民交流のイベント名として使われています。30数年前に狛江団地に住んでいた川口出身の人から『団地の住民と川口の人口は約8,000人でほぼ同じなので、川口を団地育ちの人の第二のふるさとにしたい』という提案を受けたのが交流のきっかけです。団地自治会が団地祭りなどで川口の物産販売を行って交流が始まり、その後ふたつの自治体の交流に発展、ふるさと友好都市の提携に至りました。狛江と川口の交流の輪を広げるためいろいろな事業が行われましたが、平成16年の新潟県中越地震では狛江市の職員や消防団などが被災した川口を長期間支援し、きずなが深まりました。22年に川口町が長岡市と合併した後も、従来と変わらない交流が続けられています」

「私は、21年前に市の田植えツアーで

もっと多くの市民に川口をふるさとと感じてもらいたいです

初めて川口を訪れました。農村を知らなかったのが、初めての田植えと川口の人とのふれ合いに感動し、その後何度も訪れるうちに川口が『ふるさと』と思えるようになりました



よりあっこ実行委員会委員長 築坂愛子さん

多くの狛江市民に川口でそば打ちや郷土料理などの体験、畑や施設の見学を通してきずなを深めてもらおうと企画され、市民レベルの交流を推進するために市が7年前に実行委員を公募。私はこの時に応募し、初代委員長になりました。委員の主な仕事は、川口での体験や見学などの内容の検討と、現地でリーダーとして役割を担います。事業の後には委員会を開き、準備作業や反省を行います。また、川口の人がいかに

レースや市民まつりで狛江を訪れる時には必ず参加して交流を深めています」

「30周年を迎えることしは、市役所ロビーで10日(日)から28日(土)まで交流の歩みと写真展を開くほか、16日(日)のいかにレースではアユのつかみ取り、記念ステージなどが催されます。11月の市民まつりには川口の女みこしが参加するなどいろいろな催しを行います。宿泊体験の『よりあっこ』は8月下旬に開催の予定です。リピーターも増えていますが、もっと多くの市民に川口をふるさとと感じてほしいと思っています。そして中越地震の時のように、何かあったときには互いに助け合える関係を市民レベルで築きたいのです」

築坂愛子さんの横顔=京都府生まれ、小学校3年まで東京都中野区、その後大阪府守口市で育つ。高校卒業後、大阪府内の企業でタイピスト、オペレーターとして勤務。34年に結婚して上京、52年に夫、息子2人と狛江市へ転居。30歳から卓球を始め上和泉公民館(現・上和泉地域センター)を利用したのをきっかけに同センター運営協議会に入会し地域活動に加わる。環境を考える会などにも参加。趣味は読書、旅行、卓球、手芸。

浴衣着付け無料講習会 スポット

着物着付けサークル「華結の会」(三島ゆかり会長)が7日(日)・14日(日)・21日(日)午後6時30分～8時30分に中央公民館で浴衣の着付けを教える。



着付けの練習をする会員たち

同会は、夜間に着付けを練習したい人を対象に昭和50年代終わり頃に「二葉会」として発足、公民館などで練習を続け、平成23年に現在の名称に変えた。現在は原則第1・2・3金曜日の午後7時～9時に中央公民館で、講師の小町典子さんから初心者と上級に分かれて指導を受けている。また、国際交流協会のイベント、老人ホームの納涼祭などで着物着付けのボランティアを行っている。最近では花火や盆踊りなどで浴衣を着る人が増えたのを機会に、より多くの人に着物を親しんでもらおうと4年前から毎年無料講習会を開催、上級の会員3人が着崩れしない着付けや帯の結び方、浴衣のたたみ方などをマンツーマンで教えている。参加者は、浴衣、半幅帯、腰ひも2本、伊達締め、着物ベルト(なければ貸し出し)、フェイスタオル3枚を持参する。対象は小学生以上の女性のみで、母子の参加も可。定員は各回6人。締め切りは開催当日まで。

問い合わせ ☎3488-3243華結の会 三島さん。

23日にフードバンク講演会 食品の寄贈も受け付け

NPO法人フードバンク狛江が23日(日)午後2時からエコルマホール6階展示・多目的室で「もっと知って! フードバンク」と題した講演会を催す。

NPO法人POPOLO事務局長の鈴木和樹さんが「フードバンクを地域のしくみに〜静岡モデルから学ぶ」をテーマに生活困窮の現場からみたフードバンクの必要性について講演する。



(左から) 西山さん、根本さん、石川さん、飯田さん、高梨さん、李さん

多摩川にドッグラン開設 いきものまつりでお披露目

入場は無料で、会場で食品の寄贈を受け付けるフードライブも行う。

問い合わせ ☎5497-0272フードバンク狛江。

「多摩川×いきもの×まつり」が5月27日(日)に多摩川緑地公園グランド付近で開かれた。小田急線鉄橋上流の多摩川河川敷に開設したドッグランの披露を兼ねたもので、ドッグラン安全講習、災害救助犬デモンストレーション、移動水族館などが催され、愛犬家などでにぎわった。



開設されたドッグラン

ドッグランは来年5月30日(日)まで試験運用として開設、サークルで囲んだ30㎡四方のエリアを小型犬用と中・大型犬用に2分割してある。利用時間は午前8時～午後6時(11月～3月は午後5時まで)で、年末年始と河川敷でのイベント開催時、荒天日を除いて利用できる。

問い合わせ ☎3430-1111狛江市環境政策課。